

「牛伝染性リンパ腫対策」やっていますか？

“牛伝染性リンパ腫（旧 牛白血病）”とは

牛伝染性リンパ腫ウイルスが原因でおこる「牛の血液のがん」です。感染しても発病する牛は数%ですが、生涯、ウイルスを持ち続けるため、他の牛への感染源となります。

有効な治療法・ワクチンがないため、「**ウイルスの感染を防ぐこと**」が**唯一の対策**となります。

感染は、主にアブ等により、ウイルスを含む血液が他の牛の血液に入ることによって起こりますが、直腸検査用手袋や除角・削蹄用具の使いまわしによる感染も報告されています。

症 状

リンパ節が癌化するため、リンパ節の腫れや直腸検査での腫瘍の確認、眼球突出などが起こりますが、下痢、貧血、起立困難、繁殖障害等のみが現れることもありますので、心配な時はかかりつけの獣医師へ相談してください。

県内の発生状況

県内では、ここ5年間で年間200頭前後の発生が確認されていますが、発病する牛が数%とすると、実際にはこの数倍から数十倍の感染牛がいると推測されます。

発病後は治癒することなく、削瘦や繁殖障害により経済的価値が低下し、又、と畜場で発見された場合、全部廃棄処分となるため、経済的な損失は非常に大きいと言えます。

年次	R2	R3	R4	R5	R6	R7
頭数	225	200	183	197	172	186

「牛伝染性リンパ腫対策」やっていますか？

感染させないためには

○吸血昆虫対策

牛舎の出入り口や窓に防虫ネットを張り、吸血昆虫（アブ、サシバエ等）の侵入を防ぎましょう、忌避剤の散布、アブトラップ等の設置も効果的です。

○分離飼養

感染牛と非感染牛に群分けをして、両群の間にスペースを設けると感染防止対策になります。事前に感染牛と非感染牛を把握するための検査を実施し、適切な分離に努めましょう。

○器具等を介した感染の防止

注射針や直腸検査用手袋を1頭ごとに交換、除角・削蹄等は非感染牛から実施し、器具は1頭ごとに洗浄・消毒しましょう。

「これから暖かくなり、吸血昆虫の活動も活発になります。できる対策から取り組み、牛を守りましょう！」



牛舎の周囲にネット設置



ネットにより感染牛と非感染牛を分離

岩手県中央家畜保健衛生所

Tel:019-688-4111

岩手県県南家畜保健衛生所

Tel:0197-23-3531

岩手県県北家畜保健衛生所

Tel:0195-49-3006